

3.事例から学ぶ(食品メーカー)

事例①

道内機械メーカーからの積極的な情報発信を期待

中山食品工業株式会社

道内昆布に特化した珍味商品を生産

中山食品工業(株)は、昭和52年に創業。昆布珍味を中心に年間平均で約250トン生産。道内外の卸問屋を中心に、韓国、中国などの海外市場にも販売実績を有し、年間4億円以上を売り上げています。

もともとは鱈の珍味製造・販売が事業のスタートでしたが、すぐに昆布を活用した商品開発に着手。独自の製法で開発した「磯の木昆布」と、これにとろろ昆布を巻き付けた「とろろ巻昆布」は発売当初から人気となり、現在でも全体の売上の上位を占める2大ブランド商品となっています。

原料はすべて北海道産であり、収穫時期と産地にもこだわっています。製法もほとんどが自社開発によるものであり、特許や実用新案を有している商品も数多くあります。

導入しているほとんどの機械がオーダーメイドタイプ

同社では昆布珍味の事業を開始するにあたり、道内の機械メーカーからのアドバイスを受けながらオリジナルの機械を導入しました。

この時導入した機械は、同社の昆布珍味商品開発の核となる機械であり、これをきっかけに様々な特注品の機械をこの道内機械メーカーに開発してもらっています。

この機械メーカーは事業の開始段階から現在も取引があり、機械の改良やメンテナンスなどの対応を行っています。この会社がなければ昆布珍味商品の事業がスタートしなかったと同社では認識しています。

同社では他にも道内の機械メーカーから機械を導入しており、包装工程や昆布を煮る機械などは道外メーカーのものを導入していますが、製造方法が自社開発で独創性も高いため、同社の商品や生産工程の特徴を踏まえたオリジナル機械がほとんどとなっています。

また、生産において機械を使用しているものの、各工程において実は手作業が重要な位置づけとなっています。

同社の商品の特徴は手作り感がある昆布珍味であり、他社では絶対に真似できない味を作りだすためのノウハウが手作業の部分に結集しています。

企業概要

【所在地】 札幌市北区篠路8条1丁目1番23号

【資本金】 2,500万円

【従業員数】 41名(平成26年12月現在)

【業種】 珍味類の製造・販売

【主要製品】 昆布珍味

新商品開発や省力化対応に向けた機械にビジネスチャンス

現在、新商品開発は数年おきに行っていますが、既存の機械で生産可能な商品が中心であり、全く違う発想の商品開発につなげるためにも、新しい食品機械が必要と考えています。

また、生産性を高めるための機械化へのニーズも高く、増産に対応できる処理速度の高い機械に加えて、生産現場での人手不足感があるので、工程によっては省力化につながる機械が必要と考えています。

さらに、導入している機械の中には機械メーカーが倒産するなどして部品調達ができなくなってしまったものもあり、必要となる部品を製造してくれる機械メーカーへのニーズも高くなっています。

このように同社では新商品開発や省力化に対応した自社オリジナルの機械を必要としていますが、打ち合わせ頻度や導入後のメンテナンス対応などから、経費が高くなりがちな道外メーカーより道内メーカーへの期待感が高くなっています。

道内機械メーカーからの情報発信に期待

これまでの経験から道内機械メーカーの強みは、小回りがきいて柔軟性があるところと同社では認識しており、新商品開発や省力化につながる機械開発における道内メーカーへの期待が大きくなっています。

食品機械の展示会などにも積極的に参加し、ホームページなどを通じて道内の機械メーカーの情報を集めています。展示会に参加していない企業の中にも技術力や提案力を有する優れた企業が多く存在すると考えています。同社では食品分野にはまだまだ参入の余地があると捉えており、積極的な道内機械メーカー側からの情報発信を期待しています。

道内食品メーカーアンケート調査結果より

アンケートに回答のあった食品メーカーのうち、81%が「更新前の機械の購入先」、50%弱が「機械のメンテナンス事業者」「機械や食品の展示会」から食品機械の情報を入手しています。

また、アンケートでは20%となっていますが、中山食品工業(株)の事例のように、機械メーカーに関する情報収集の方法としてホームページの検索もよく行っています。

道内の食品メーカーには道内機械メーカーから食品機械を調達したいと考えている事業者も多く、展示会への出展はもちろんのこと、最低限ホームページを開設して知ってもらうことは重要と考えられます。

【機械を購入する際の情報入手方法】

